高校公民プリント（過去問類似）
公共、倫理（2025年～の共通テスト本試験）
No.4

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

得点 ／10

問1 世俗的な美醜や善悪、あるいは生と死といった対立する価値基準はすべて相対的なものにすぎず、自然の観点から見ればあらゆるものは等しく一体であるとする、道家の思想家が説いた考え方を何というか。（2025年　全国公立入試　類似）

1. 無為自然　**2.** 兼愛非攻　**3.** 王道政治　**4.** 万物斉同

問2 和辻哲郎は著書『風土』において、人間の精神構造が自然環境によって規定されると論じた。彼は、ヨーロッパに見られるおだやかで従順な自然を「牧場型」と呼んだのに対し、日本を含む東アジアに見られる、湿潤で恵み豊かであるが、同時に台風や洪水などの激しい暴威を振るう自然環境を何型と呼んだか。（2026年　全国公立入試　類似）

1. モンスーン型　**2.** 牧場型　**3.** 砂漠型　**4.** 台風型

問3 近代市民社会において確立された、個人の個性や属性にかかわらず、すべての人をルール上等しく扱い、スタートラインの均等を図ることで自由な競争を保障しようとする平等のあり方を何というか。のちに、資本主義の発展に伴う貧富の差の拡大に対処するため、国家が介入して実質的な格差社会の是正を目指す動きへと発展する契機となった、初期の平等の概念である。（2025年　全国公立入試　類似）

1. 結果の平等　**2.** 実質的平等　**3.** 形式的平等　**4.** 機会の平等

問4 人間の本性を悪と捉える思想において、人々が欲望のままに争うのを防ぎ、社会秩序を維持するために、聖人が定めて後天的に学習し身につけるべきとされた客観的な社会規範を何というか。（2025年　全国公立入試　類似）

1. 智　**2.** 礼　**3.** 仁　**4.** 義

問5 経済的格差を是正し所得の再分配を図るため、課税対象額が大きくなるに従って、より高い税率を適用する課税方式を何というか。（2026年　全国公立入試　類似）

1. 累進課税制度　**2.** 総合課税制度　**3.** 比例課税制度　**4.** 逆進課税制度

問6 人工知能（AI）やビッグデータを積極的に活用し、仮想空間と現実空間を高度に融合させることで、経済発展と社会的課題の解決を両立する未来社会のコンセプトを何というか。この社会の実現に向けては、利便性の向上だけでなく、個人の行動追跡による監視や人権侵害といった倫理的課題への対策も求められている。（2025年　全国公立入試　類似）

1. Society 5.0　**2.** Society 4.0　**3.** Society 3.0　**4.** Society 2.0

問7 社会の土台となる物質的生産活動や経済体制を「下部構造」とし、その上に構築される政治、法律、宗教、そして文化芸術などの精神活動を「上部構造」として、前者が後者を決定・規定するとした歴史観を提唱した、エンゲルスとの共著『共産党宣言』などで知られるドイツの思想家は誰か。（2025年　全国公立入試　類似）

1. ラサール　**2.** フーリエ　**3.** オーウェン　**4.** マルクス

問8 著書『アナーキー・国家・ユートピア』において、個人は自らの身体や正当に獲得した財産に対して絶対的な支配権を持つという考え方に基づき、国家の役割を国防や治安維持などの最小限に限定すべきだと主張した、アメリカの哲学者は誰か。（2026年　全国公立入試　類似）

1. ノージック　**2.** ウォルツァー　**3.** サンデル　**4.** ロールズ

問9 日本の国税のうち、個人の所得に対して課され、課税対象額が大きくなるほど高い税率が適用される、所得再分配機能の中心的な役割を担う直接税は何か。（2026年　全国公立入試　類似）

1. 所得税　**2.** 法人税　**3.** 贈与税　**4.** 相続税

問10 著書『方法序説』において、方法的懐疑を通じて「私は考える、ゆえに私はある」という哲学の第一原理に到達し、理性による論理的推論を重視して近代合理主義哲学の基礎を築いたフランスの哲学者は誰か。（2025年　全国公立入試　類似）

1. パスカル　**2.** スピノザ　**3.** デカルト　**4.** ベーコン

答え合わせ・解説 No.4

問1	答え 4 万物斉同	荘子は、人間が作り出した美醜や善悪などの価値基準は相対的なものにすぎず、絶対的なものではないとした。この立場から、すべての差別や区別を否定し、万物を等しいものとして一体に見る境地を「万物斉同」と呼んだ。
問2	答え 1 モンスーン型	和辻哲郎は、人間の存在のあり方を規定する風土を3つのタイプに分類した。そのうち、東アジアから南アジアにかけての地域は、湿気と暑さがもたらす豊かな恵みと、突発的な自然災害という二面性を持つ。この気候的特徴から名付けられた風土において、人々は自然に対して従順かつ受容的な精神性を形成するとされた。
問3	答え 3 形式的平等	近代市民社会の成立期において重視されたのは、身分制度などの特権を廃止し、すべての人をルール上同じように扱う形式的平等であった。これは「機会の平等」を保障するものであったが、自由競争の結果として生じる貧富の格差を解決できなかったため、のちに社会的弱者への配慮を行う「実質的平等」の概念が必要とされるようになった。
問4	答え 2 礼	荀子は、人間の本性を悪とし、放っておけば欲望に流されて争いが生じると考えた。そのため、聖人が定めた客観的な社会規範を後天的に学び、身につけること（礼治）によって社会秩序を維持し、人々の幸福を実現すべきだと主張した。
問5	答え 1 累進課税制度	所得が多くなるほど高い税率を適用する仕組みであり、所得税や相続税などに導入されている。これにより、高所得者から多くの税を集め、社会保障などを通じて低所得者に還元することで、社会的な格差を縮小させる効果（所得再分配機能）を持つ。これに対し、消費税などは所得の低い人ほど負担感が重くなる「逆進性」を持つ。
問6	答え 1 Society 5.0	内閣府の科学技術基本計画において提唱された、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く5番目の新たな社会を指す概念である。AIやIoTの積極的利用により、少子高齢化や地方の過疎化などの課題解決が期待される一方、個人データの不適切な管理によるプライバシー侵害や、アルゴリズムによる差別の助長といった倫理的・法的な懸念も指摘されている。
問7	答え 4 マルクス	歴史の発展を物質的な生産力と生産関係の矛盾から説明する唯物史観（歴史唯物論）を唱えた。彼は、社会の経済的基盤である下部構造が、政治、法律、宗教、文化芸術などの上部構造のあり方を根本的に規定・決定すると主張した。
問8	答え 1 ノージック	ロールズの『正義論』における福祉国家的な再分配政策を批判し、個人の自己所有権を重視する自由至上主義（リバタリアニズム）を唱えた。国家の役割を生命・財産の保護などに限定する「最小国家」を擁護したことで知られる。
問9	答え 1 所得税	個人の1年間の所得に対して課される直接税であり、納税者の担税力（税を負担する能力）に応じて税率が高くなる超過累進税率が採用されている。これにより、貧富の格差を是正する役割を果たしている。一方、消費税などは税率が一律であるため、低所得者ほど負担割合が大きくなる逆進性がある。
問10	答え 3 デカルト	方法的懐疑によって一切の事象を疑った末に、疑っている自己の存在だけは疑い得ない真理であるとして「コギト・エルゴ・スム（私は考える、ゆえに私はある）」を第一原理に据えたのはデカルトである。彼はこの確実な前提から理性的推論によって知識を導く方法を提唱した。